

## 教育委員会面談記録

日 時： 2012年11月8日 AM10:00～AM12:00

場 所： 区役所10階応接室

出席者： 五十嵐やす子区議

板橋区学務課長、給食係長、栄養係長

保育サービス課長の4名

区内の保護者6名（守る会メンバー他）。

内 容：主に、以前板橋区子どもを被ばくから守る会 が提出した陳情  
（【第2項 栄養士指導】の件が採択後にどうなっているか）や、  
給食食材の検査について質問と回答。

### 【板橋区子どもを被ばくから守る会からのお願いについて】

どのように栄養士に通達を出し指導がなされたのか

2011年10月4日に採択されたお願いの一部『各学校、保育園、幼稚園など給食の食材調達・調理において、放射性物質を減ずる対策をするよう、各栄養士に指導すること』を受け、どのように栄養士に通達を出し指導がなされたのか、という質問に対しての以下の回答  
守る会HP <http://itabashi-kodomo.jimdo.com/%E6%B4%BB%E5%8B%95%E5%A0%B1%E5%91%8A/%E8%AB%8B%E9%A1%98%E6%9B%B8-%E9%99%B3%E6%83%85%E6%9B%B8/>  
板橋区議会HP [http://www.city.itabashi.tokyo.jp/c\\_kurashi/037/037380.html](http://www.city.itabashi.tokyo.jp/c_kurashi/037/037380.html)

→「都や国の実施する研修を受けるよう指示を出し、実際に参加してもらっている。

その中で、一般的な放射性物質への注意事項や出やすい食材などを学ぶ。放射性物質に対応するための調理の基礎（良く洗う。生で食べないなど）を学ぶ。

（↑これは、普段から給食室では行われていることでもある。）

（非常勤の栄養士は時間的制約で会議や講習に出られないことが多い。）

栄養士が講習に参加出来なかった場合には、資料を必ず渡して勉強してもらおうようにしている。時間的にどうしても出席できない栄養士もいる。休んだ栄養士に対しては資料のコピーを送付。

→随時FAXで周知

教育委員会としては、国の基準以下である以上、これは禁止という言い方はできないが、国やメーカーが実施した測定結果を栄養士宛てにFAXしている。各地域で測定して検出されたもの、基準を超えたものは、各学校に資料として提供しているが、特に学校で使う可能性が高い食材で検出されたものはFAXなどで流して報告している。

→定期的に区の栄養士が集まる会合の際に周知

その際に、議会の状況、保護者からの声、産地の状況などを伝えたいところをきちんと対応してもらえるように伝えている。

検出される可能性の高いもの、低いもの、だいぶ分かってきているので、会合で話して栄養士に知識としてもって帰ってもらっている。

↓↓

では、そのような指導があるにも関わらず給食に危険性の高い食材(きのこ・レンコン)や気になる産地の食材が出てくるのはどういうことなのか？

→区以外が実施した検査や、学校給食会が実施した検査があり、栄養士がその数値を見てその地位のもの安全だと判断し、その上で出している可能性はある。

区独自の研修はできないだろうか？

(たとえば市民研の上田さん(食材選んでベクレルチェック)など)

→良いことだと思うけれど、実際、時間的制約があると思う

【食材の産地の選定】

→栄養士の話を見ると、卸業者も産地を意識しているようだ。近隣の業者2、3と契約しているが、出やすい産地、食材は避けて卸しているようだ。栄養士と八百屋など業者とのやり取りで、「ここはどうか、大丈夫かな？」という会話があるような状況。

→国の基準がある以上、教育委員会としては、この産地はダメとか、この食材は使っちゃいけないとか、指示することは出来ない。

→産地によっては、あらかじめ検査済みのものを納入してもらったり、また区内農産物を使うときには検査してから、あるいはとれたて村に検査してもらうなどしている。公開していないが、検査したものを使うようにはしている。そうするよう栄養士には伝えてある。

→ものによって無神経な選択に見えるものがあるかもしれないが、実は検査して使っているものもある。

【栄養士と保護者】

保護者の声を拾いきれていない学校や、不適切な対応をしている学校に対しては指導を行って欲しい。(ある保護者が学校の栄養士に電話で相談をしたが、その際の栄養士の対応が悪く、非常にながかりしたという一件も話に上がった)

→栄養士や学校に物申すことを臆する保護者もいる。子どもを預けている以上、モノ申した結果として何か子どもに不利益があるのではないかと心配する。そのように…心配だと思っても声をあげられない保護者、声は上げずに独自に対応している保護者がいるということが、栄養士さんには伝わっていない。伝わっていないので「そういう話(心配している保護者からの声)は聞いていません」となってしまう。しかし、教育委員会では栄養士さんに対して「保護者の声を待つだけでなくこちらから知ろうとする姿勢が必要だ、声を上げられない保護者がいるという前提で対応するように」と伝えている。保護者の思いを汲むこと、情報は積極的に公開し、発信していくことを目指してはいるが、浸透していない現状である。善処します。)

→ただ…栄養士は人に話したり説明したりする「訓練」を受けていないので、保護者からの質問にうまく答えられないかもしれない。園長や校長やわれ

われ管理職の人間は訓練を受けておるのだが。

→また、学校が保守的なのは実際あるし、そうになってしまうのも仕方がない側面がある。

→しかし、放射性物質は新しい問題。旧態依然の対応ではいけないという意識はある。

#### 【食材の放射性物質の測定の状況について】

→1学期に1回8品目の検査を実施・区HPにて公開している

その他に教育委員会でも検査、学校給食会の検査があるが、結果は公開していない。区が実施した測定については公表できるが、間接情報なので区として情報発信はできかねる。

→それらの別の機関でやった検査は自分たちで勝手に公表することはできないが、栄養士には個々の結果を伝えている。それら間接情報について、学校の情報の扱い方には違いがあり、それらを給食室に貼りだしている栄養士もいれば、特に公表しない場合もあるとのこと。

→我々は、体験学習に使う食材・土壌の検査も大切にしたいと考えている。食育としてのとても効果的であり、残菜チェックすると、子どもたちで自ら育てた野菜を使って調理したものはほとんど残菜ない（給食において残菜は日々チェックしている）。給食よりもつまり皆が好き嫌いを言わずよく食べているということである。

#### ちなみに、板橋農業祭の大根ひっこ抜き体験の大根なども検査は？

→してくれていたと思う。

#### 【情報の公開について】

ここまでの面談を経て分かったのは、教育委員会および行政は区民に公開していない情報を持っているようだということだが…

どうやら情報のアウトプットと、実際のコミュニケーションに不足があり、それによっていろいろな苦情や問い合わせを生み出しているのではないか。改善してほしい。

意外と検査してくださっているのであれば、情報を出さないともらいたくない。情報を提供してもらわないと、とにかく判断できない。不安だけがつる。

給食の献立を作る際には外部の機関がやった検査結果も参考にしていることや、それを区のHPでは公表できないことなどをきちんと明記すること。（公表されないことが多いことが苦情や問い合わせにつながっている。やったことはもちろんのこと、できないことの理由の明記も）

→分かりました。間接情報なので区のHPに載せていないが、リンクと説明文を載せることで対応していく。たとえば、東京都学校給食会や、東京都教育委員会に牛乳や給食に使用される食材の検査結果が出ているので、リンク先を見てもらいたい。

東京都学校給食会 (<http://www.togakkyu.or.jp/safety/vacant.html>)

東京都教育委員会 ([http://www.kyoiku.metro.tokyo.jp/pickup/p\\_gakko/housha.htm](http://www.kyoiku.metro.tokyo.jp/pickup/p_gakko/housha.htm))

測定結果に都道府県だけではなく市区町村の表記をしてほしい。

同じ県でも川近くと内陸部では検査結果に差が出る。事故直後は青菜などが心配であったが、今は汚染が河川へと移っているのだから心配。たとえば、茨城県産のレンコンと霞ヶ浦のレンコンでは汚染度に違いがある。

→はい。

給食だよりも、放射性物質の検査結果を載せることを栄養士に提案できないか

ネット環境がないという保護者もまだまだ多数いるので、紙面で伝えて欲しい

→はい、そういう手もあると思う。

栄養士、教育委員会、保護者の三者面談できないか。

……やはり今回のように対面で、顔と顔を突き合わせながらお互いの考えを提示しあうのが一番いいと思うのですが

→できる可能性はある。栄養士の勤務形態上難しい。やはり時間的制約。土日や夜間の開催は難しい、等

→直接顔をあわせられるような機会として、栄養士と保護者が同席して意見を交わしあう場として「給食試食会」があるが、栄養士さんも本業があり、ひざとひざを突き合わせての意見交換は難しい。

産地は都道府県単位でなく、市区町村まで表記して公表してほしい。

→善処します。

先日(2012/10/24)公表された食材検査で、なぜあのような産地の食材を選んだのか？

熊本産の栗、北海道産のチーズ・スイートコーン・インゲン、愛知のうずら卵

→まず、あれは東京都実施の無料検査であり、区が検査したのではない。

([http://www.city.itabashi.tokyo.jp/c\\_oshirase/040/attached/attach\\_40028\\_6.pdf](http://www.city.itabashi.tokyo.jp/c_oshirase/040/attached/attach_40028_6.pdf))

→ちなみに、区として行った検査はこちら。丸ごと検査に加え、千葉、茨城のさつまいも、レンコン。

([http://www.city.itabashi.tokyo.jp/c\\_oshirase/040/attached/attach\\_40028\\_7.pdf](http://www.city.itabashi.tokyo.jp/c_oshirase/040/attached/attach_40028_7.pdf))

→東京都の実施している無料検査において（←あくまでも”区のお財布”は痛まないという意味。無料といえども東京都民でもある区民の支払った税金から賄われているわけですから…）板橋区が都に測定（先日の関東東北以外の産地オンパレードの検査）を依頼するものは、東京都の検査期間に前日まで(?)に検体をわたさなければいけないため、主に乾きものが多い。生鮮食品は当日の朝に学校に納入されるから。

→それゆえ、調べるべき産地（関東や東北）&食材が見当たらず、むしろ検査する食材を一生懸命問い合わせて探している状態。その結果、10月に実施した都の検査では北海道産や九州のものを出すことに。

→つまり”しょうがなく”あれら熊本の栗、北海道のチーズ等を提出。「でも、つまり、給食室にはこういう（安全な地域の）食材しかないということなんですよ…（ドヤ顔）」

福島産の梨が給食に出た件について説明が欲しい

- 栄養士によっては、この季節にはこの食材、という季節感を演出したい、野菜を減らしたい（果物は人気！）という思いから安易に使ってしまったのかもしれない。
- 説明責任は栄養士にある、という話はよくしている。
- 「なぜこの食材を使うの？」というのが保護者の知りたいところ。「規則ですから」みたいなお役所的答弁はダメ。
- 放射能問題で給食が注目されている。給食を理解してもらういい機会だと思っている、という話は栄養士にしている。
- 栄養士も説明する訓練を受けているわけではないので、これからの課題。
- 放射性物質は社会的な評価も定まっていない、難しい問題。
- 今まで経験則でやってきた栄養士にとっても、新しく難しい問題。
- 栄養士だけでなく、学校長でもなかなか説明できない人が多い。栄養士だけの問題ではなく、学校長によっても変わる。

### 【五十嵐区議のお話】

＜市民研での勉強会で学んできたことの話（食材選んでベクレルチェック）をお聞きすることができた。また、面談出席者に一枚ずつのワークプリントを配布、各自記入。その後五十嵐区議より解説があった＞

- 「食事に気をつけている人とそうでない人とは、代謝や半減期のせいで体内にある放射線物質の量にとっても差がでてくるというデータがある。気をつけている人は排出されるから取り入れちゃっても減るが、気をつけていない人は排出されてもまた入るから、減らない。いまやっていただいたワークプリント※からも実感できたように、毎回の食事の設定はとても大事で、給食は一日3食の中の1食分でありとても大切。子どもによっては朝抜くので2食分の1。」

※五十嵐さんの配布してくれたワークプリントとは…

食材が羅列されているので、そこから10品目選ぶ。

各食材には数値(過去に検出されたなかで一番高いものを選んでのデータ数値。単位はBq)が添えられているが、それが一食当たりの子どもの食べる量で換算されたベクレル数。(選んだ10品目分を足し算していくと、一食分当たりの汚染度が分かる)

**1品でもミスすると、グンっと一食当たりのベクレル数が上がってしまう、という事について身をもって体験**

### 《保育園に関して》

【保育園の給食は、肉や魚の検査はどうなっているのか】

小中学校と異なり、保育園では今まで野菜類しか検査&公表していませんが…

- 魚は近所の店舗から切り身の状態で仕入れていて、産地がはっきりしない場合もある。

【しかし、それでは困る。不明なものは使わないでほしい。】

- 善処します

魚、肉の産地も公表を。

→現在、産地告知の業務は主に保育園の園長が担当しており、忙しい中仕事が増えるのはなかなか大変ではあるけれど、（肉・魚も）なるべく告知してくれるよう依頼します。

→ちなみに。現状、椎茸は献立に入れていない。これは、献立を2ヶ月前に作るため、直前に出荷制限がかかった場合に献立を考えなおさなければならなくなり、困ったことになるから。

米、小麦は食べる量が多いので、産地を公表してほしい。

→善処します。

### 【面談を終えて…】

教育育委員会では栄養士さんに対して「保護者の声を待つだけでなくこちらから知ろうとする姿勢が必要だ」と伝えてくれているようだが、実際問題栄養士の顔も知らない保護者の方が圧倒的に多いだろうと思う。結局アンケートになるわけだが、そこに限られた時間の中で言いたいことを書く人がどれくらいいるだろうか。

当日同席していただいた栄養士さんから「“今日は同席して本当によかった”。保護者からの生の声を聞いて切実さが伝わってきた」。とのコメントがあった。それは非常にありがたいことではあるけれど、逆に今までずっと切実さが伝わっていなかったということになる。

板橋区内の、子を持つ普通の保護者たちが手さぐりで行動を起こし、請願陳情を提出して対応を求めてきたという状況でもなお、伝わらなかったということなのだ。今回実際に顔を突き合わせてお話したことで、生の声として受け止めていただいたのは大変有意義だった。